

## 西尾市岩瀬文庫を訪ねて



会員 本多弘司



3月25日に「古書の博物館」として創立100周年を迎えた岩瀬文庫を訪ねました。私としては近くの中学校と高校を卒業していることや、観光ボランティアを1年やったこともあり、「小京都と呼ばれている城下町の街並み散策」にひかれて参加しました。

岩瀬文庫では学芸員の案内で、ビデオの見学、展示品の説明、古書の閲覧が出来ました。古書はいつでも誰でも自由に閲覧できます。

見せていただいたのは、元本に最も近いといわれている清少納言が書いた「枕草子」の写し、夏目漱石の手紙などでした。特にブドウの絵は、写真以上にリアリティがあり印象に残りました。動物の絵も細い毛の一本一本が丁寧に書かれていました。その技術たるや手間暇、根気に驚きです。当時の生活、文化などが想像できます。ただ、少しマニアックで専門的な知識が必要かもしれません。岩瀬文庫の所蔵品はお宝の山で、その目録作りが名古屋大学によって10数年続き今も行なわれています。写本や絵図は地元の商人岩崎弥助が全国から蒐集したもので、文庫は個人が設立したものです。1945の三河地震で建物が倒壊し、経済苦境で資料は売却の危機にありましたが、市民の保存運動により市が再建することになりました。岩崎弥助など地元の商人は、岡崎までの西尾鉄道を開設するなど地域の振興に尽力しました。伊文神社には商人らによって作られた義倉蔵があり、飢饉など庶

民の災害に食料品を備蓄していました。

西尾は城と城下町を含めた総構えです。堀や土塁はほとんど残っていません。これまで城下町の街並み保存運動や井桁屋の建築物保存運動もありましたが、車社会で主な商店が西と東に旧市街から移転しました。市役所や商工会議所も駅東に移転してしまい、メイン道路の拡幅で古い町並みは壊され、保全運動は停滞しています。それでも、本町や肴町など伝統的な建築物は分散的ですが残されています。写真は路地裏の路です。私の好きな場所は尚古荘です。そこから路地を通して西尾歴史公園に行くのがお勧めです。駐車場は本町の市営駐車場があります。電車の方は駅の観光案内所で地図をもらってください。お食事はみそ工場の敷地にある和食（混みます）か、別のそばがお勧めです。小京都を名乗っていますが、由緒あるお寺や家康との関りであって、これがとういうものは見つけにくいです。7月の祇園祭りや大名行列、西尾のお茶や産業の変遷、文化、歴史的な街並みの風情を味わうのに、カメラやスケッチブックを持ち、街歩きが楽しい季節です。一方で、市政は駅前再開発の破綻、「西尾式PFI」の強行など問題です。文化的・歴史的なまちづくりを市民参加で、先人に学び進めて欲しいものです。